

# セアカゴケグモの駆除方法等に関する 調査研究業務

株式会社東産業  
なたね通信  
特定非営利活動法人NPOちよつと自然

# 目的

セアカゴケグモの生息状況や駆除の効果を検証することで、駆除の効率的な方法や頻度についての情報を蓄積するとともに、市民に広く普及啓発を行い、セアカゴケグモによる被害を防止する。

調査方法	.....	1
調査、駆除、モニタリングの概要	.....	2
対象地の概要	.....	3
調査結果	.....	4
今後に向けて	.....	10

# 調査方法

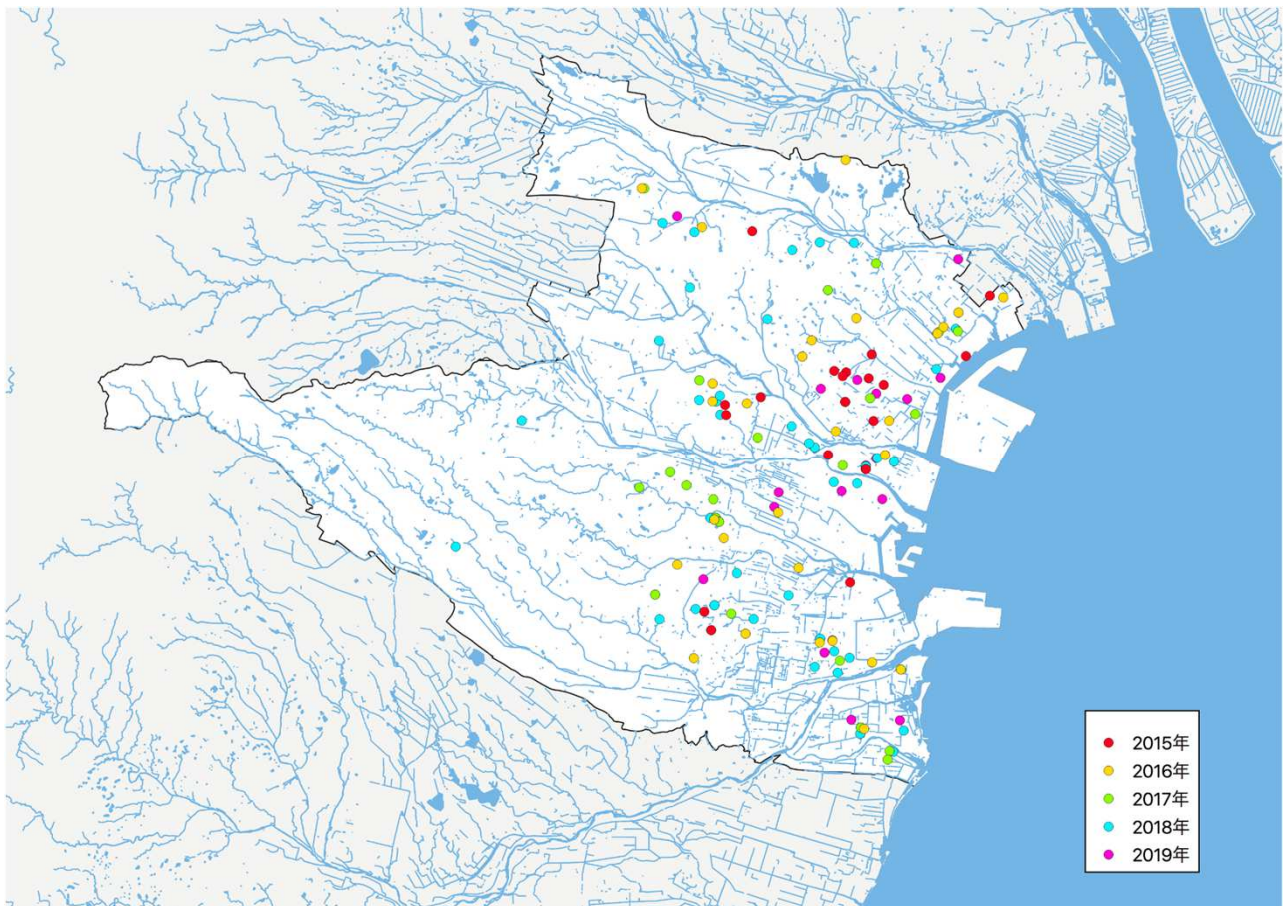
## ■ 調査方法

調査は、クモが潜んでいそうな所を目視で確認し、存在の有無を確認する。3施設を3か月間にわたりモニタリングし、施設の建物の支柱や屋外にある人工物の周囲、中、下などに潜んでいそうな場所を巡視していく。セアカゴケグモの生息が確認された場所は、記録し、成体と卵塊は駆除する。その後、再びクモが発生していないかどうか同じ場所を目視で確認し、駆除の成果を検証した。

## ■ 調査対象地

過去に四日市市に寄せられたセアカゴケグモに関する情報を基に、生息分布図を作成し、特に一般市民らが利用する場所、施設から以下の3施設を選定し、調査及びモニタリングを実施した。

- ・北部墓地
- ・垂坂公園
- ・市立磯津保育園



四日市市からデータの提供を受け、GISを使用し、分布図を作成  
国土地理院基盤情報地図に基づき作成(特定非営利活動法人NPOちょっと自然)

# 調査、駆除、モニタリングの概要



## クモの調査

人工物や建物の四隅などを中心に調査した。



## クモの駆除

発見次第、殺虫剤を使用し殺傷する。また、殺虫剤を噴射しにくい場所は、ピンセットを使って、クモを捕まえ、容器に入れてから殺虫剤を吹きかけるなどした。



## クモのモニタリング

一度発見された場所を記録し、駆除後に再び出現していないかどうか確認した。

## 対象地の概要



北部墓地



垂坂公園、羽津山緑地



市立磯津保育園

# 調査結果

## ①北部墓地

### ■ 調査結果

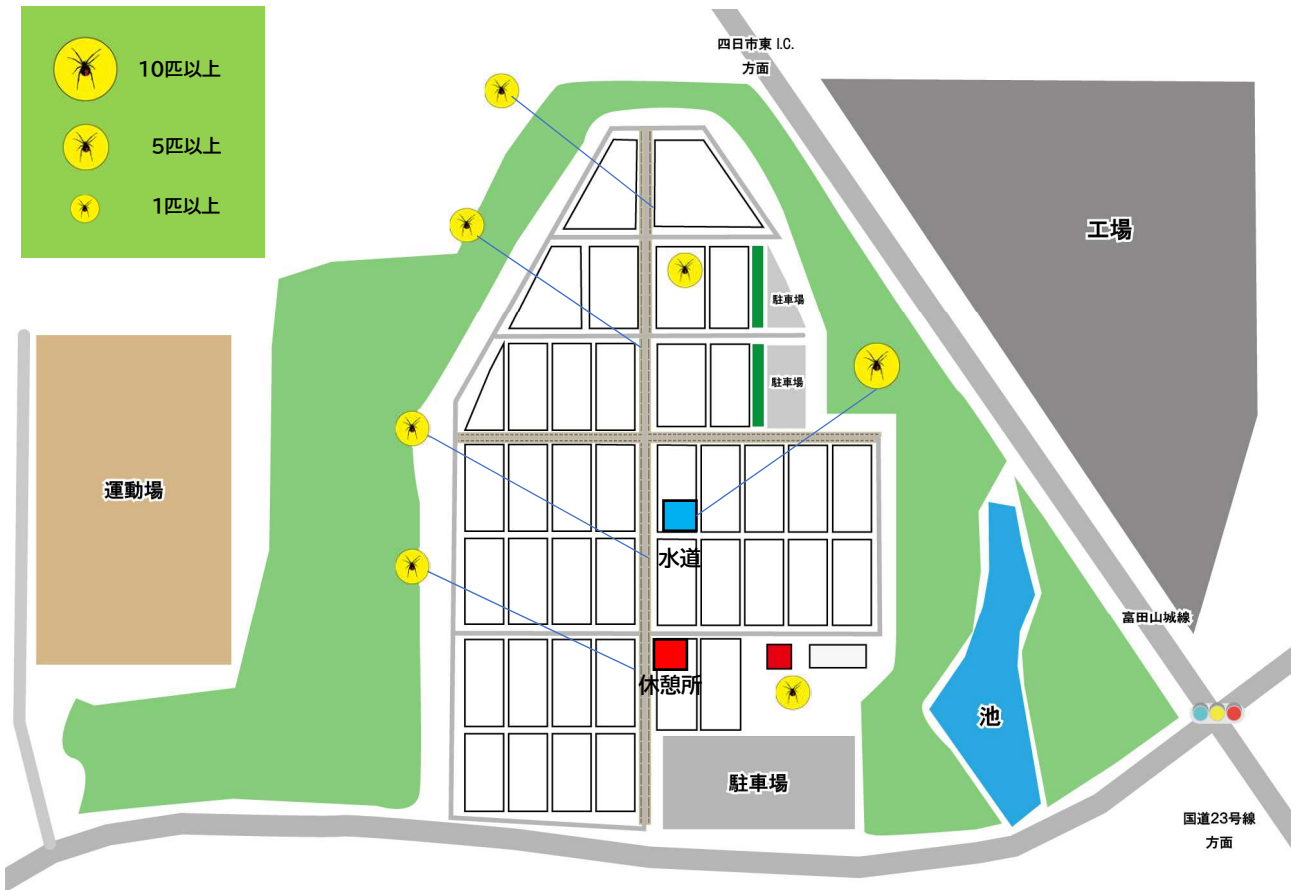
調査日	発見個体数(匹)
2019年 10月28日(月)	2
11月18日(月)	8
12月09日(月)	5
12月26日(木)	0
2020年 1月20日(月)	0

### ■ 主なクモの確認場所

- ①グレーチング下
- ②墓石の内側 ※双眼鏡で確認、個人の所有物の為、駆除は行っていない。
- ③水道まわりのブロック内、四隅
- ④休憩所のベンチ下、テーブル下



## ■ クモが確認された場所（北部墓地）



## ■ 駆除の様子



## ■ 考察

敷地全体でセアカゴケグモが見られる。墓石の足元や隙間、墓花に付着していることもあった。休憩所の椅子の下からも見つかっており、参拝者に対する注意喚起と夏場の定期的な駆除活動を提案する。

# 調査結果

## ②垂坂公園、羽津山緑地

### ■ 調査結果

調査日	発見個体数(匹)
2019年 10月28日(月)	0
11月18日(月)	1
12月09日(月)	0
12月26日(木)	0
2020年 1月20日(月)日	0

### ■ 主なクモの確認場所 ※②、③、④は、卵塊のみ

- ①自動販売機裏側
- ②公園のベンチ
- ③休憩テーブルの下
- ④立て看板の根元





■ クモが確認された場所（垂坂、羽津山緑地）



■ 調査、駆除の様子



■ 考察

成体は、1匹のみの確認となったがセアカゴケグモと見られる卵塊を多数発見した。生息分布図からは、周辺地域における生息が確認されているため、生息していることを前提に、今回卵塊等が見つかった場所を中心に、駆除や予防的な措置を講じていくことを提案する。

# 調査結果

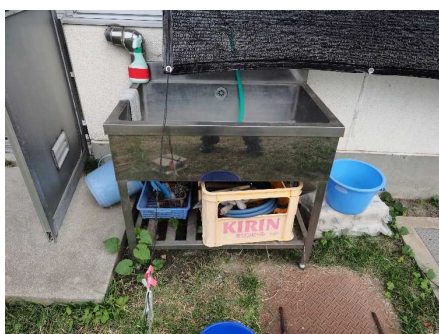
## ③市立磯津保育園

### ■ 調査結果

調査日	発見個体数(匹)
2019年 10月11日(金)	2
10月24日(木)	8
11月07日(木)	5
11月21日(木)	3
11月28日(木)	6
12月26日(木)	18
1月30日(木)	0

### ■ 主なクモの確認場所

- ①クジラの滑り台の中※上部
- ②タイヤ遊具の内側
- ③手洗い場の裏側
- ④プランターの側面※手でかけて持ち上げるところ
- ⑤正門、裏門の四隅
- ⑥保育園周囲のグレーチングの裏、溝内の落葉下



■ クモが確認された場所（市立磯津保育園）



■ 駆除の様子



■ 考察

・隣接する磯津公会所のカラーコーン内側、滑り台下からも成体、卵塊を多数発見した。セアカゴケグモは、保育園の周囲に多数生息しているため、園児の安全を確保するために、定期的な駆除と園周辺の調査駆除を同時に実施していくことを提案する。

## ①発生抑制、定期駆除の効果等

今回の実証実験において、成体を駆除した場所をモニタリングしたところ、多くの地点で再びクモが見られることはなかった。この結果を踏まえ、本報告書に記載されている生息場所の写真などを参考に、定期的な駆除を実施すれば、ある程度のクモの抑制につながると考えられる。

また、定期的に、巡視する場所を決めておくこと駆除の効果を検証することが可能となるため、ルートを決めて定期的な駆除と巡視を行い、合わせて成果を記録しておくことを提案する。

## ②クモや卵塊の写真をつかったセアカゴケグモに関する普及啓発活動

事業を通して、施設管理者などと対話する中で、クモをしっかりと見たことがない、セアカゴケグモかどうかよくわからないなどの反応が見られた。ポスターやチラシを使った普及啓発に合わせて、駆除した成体や卵塊を標本化し、例えば、教職員研修や施設職員研修などの場で、展示及び解説するなど、セアカゴケグモの特徴をより具体的に知らせる手法を検討することを提案する。

## ③医療機関との連携、専門的見解等の開示

クモに咬まれるとどのような症状になるのか、環境省や各都道府県の見解について、完全には統一化されていない。また、情報が掲載されてから時間が経過している資料もあるため、最新の動向や医者の見解、受診できる医療機関などをまとめて記載することを提案する。現状では、セアカゴケグモについて、妥当性の高い情報にたどり着くまでに、時間を要してしまうため、咬まれた当人やクモが見つかった施設職員らは相当混乱するものと考えられる。不要な混乱を避けることは施設利用者や周辺住民からの誤解等を避けるという点でも効果があるものとする。

## ④生息していることを前提とした対応の検討

生息分布図を参考にして、該当する地域の公共施設や保育園、高齢者等が利用する施設へ情報提供などを行い、セアカゴケグモの駆除や抑制等を推進することを提案する。

本事業の結果からセアカゴケグモが見つかった施設の周辺でもクモが確認されている。